

令和7年10月22日（水）

東京都武蔵野市

○市の概要

人口：148,227人

面積：10.98Km²

世帯数：79,683世帯

令和7年度一般会計予算：880.2億円



市章

武蔵野市は、市内を東西に貫通するJR中央線に沿って主に三駅圏に分かれているのが特徴である。市の玄関としてデパートや専門店などの商業集積をもつ吉祥寺圏。三鷹駅から北側に伸びる文化・行政のゾーンの中央圏。武蔵境駅を中心に、大学などの文教施設や中核病院をもつ武蔵境圏。この3地域の個性を生かしつつ、全体が調和したまちづくりを進めている。

1. 観察内容

- 目的
 - ・武蔵野クリーンセンターを見学し、ごみの再資源化を学ぶ
 - ・環境啓発施設である、むさしのエコ re ゾートの取り組みを学ぶ

2. 武蔵野クリーンセンターについて

○現在のクリーンセンター建築概要

敷地面積 約17,000m²、延べ面積15,000m²

建物の高さ 約150m（最高高さ17.79m）

階数 地上3階、地下2階 鉄筋コンクリート造



（1）武蔵野クリーンセンターの経緯について

昭和22年(1947年)に武蔵野市が誕生。S30年頃より近隣（三鷹市、調布市）の自治体と組合をつくりごみ焼却場を設置していたが、ごみが増えたこと、焼却場現地の住民の反対がありS48年には、武蔵野市独自のごみ焼却場建設を検討することになる。以後11年間市民と検討し、S59年武蔵野クリーンセンターが稼働。その後も市民と話し合いが進められ、H29年現在の武蔵野クリーンセンターが稼働開始となる。

（2）これまでの具体的な取り組み

○クリーンセンターには、燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ、危険・有害ごみの4種類が搬送され、周辺環境や地球環境に配慮しながら、日の出町の最終処分場やリサイクル工場に運ぶための「中間処理」を行っている。

○平成19年(2007年)より、従来は焼却処理をしていた落ち葉や剪定していた枝を、クリーンセンターでの焼却後、肥料の原料として再資源化を実施し、燃やすごみの減量化を行っている。

(3) 武蔵野クリーンセンターの特徴

4つのコンセプト

① 環境の保全に配慮した安全・安心な施設づくり

○全国トップレベルの排ガス規制値をクリアする安全・安心なシステム

・最新鋭の焼却炉と乾式重曹排ガス処理システムによって、自主規制値以下で運転している。

○ごみ焼却による高効率の発電システムを導入している。

・ごみを燃やして発生する熱を利用した、高効率のごみ発電システムを導入している。

② 災害に強い施設づくり

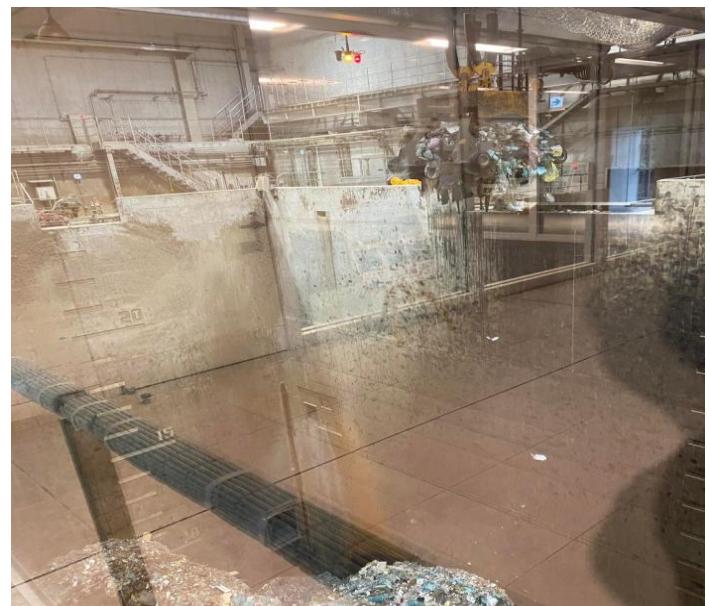
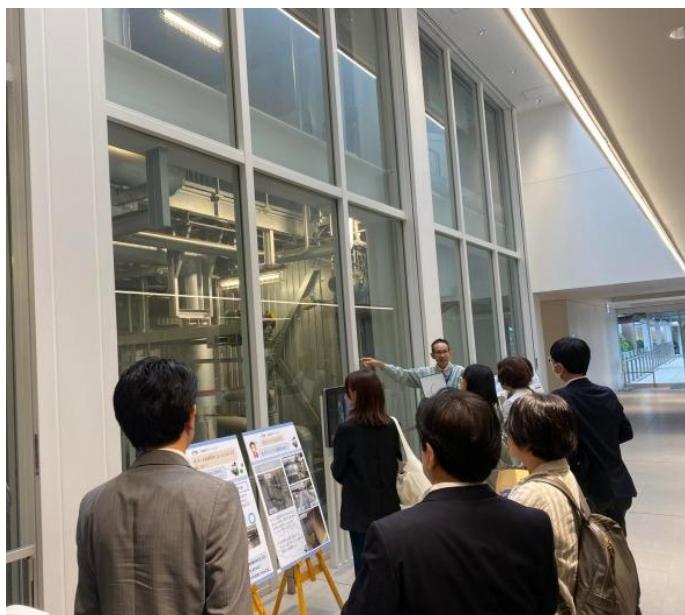
○災害時にもエネルギー供給できるシステムにされており、周辺施設の防災拠点となっている。

○平常時においては、焼却炉で燃やした熱を利用して、電気、蒸気を生み出し、クリーンセンター内をはじめ、周辺の公共施設にも供給し地域エネルギー供給拠点としての役割も担っている。

(市役所、総合体育館などの公共施設、市内小中学校 18 校に電力供給、蒸気も市役所体育館、温水プールに供給など)

③ 景観及び建築デザインに配慮した施設づくり

○クリーンセンターは、市街地の中心部に位置するため、周りとの調和を図る景観に配慮をし、武蔵野の雑木林をイメージした外観のデザインにしている。環境の保全に配慮された安心・安全な施設として運営されている。



④ 開かれた施設づくり

○ごみ処理の流れを自由に見学、体感する。

- ・施設は見学しやすいつくりとなっており、開館時間に自由に見学が可能。見学は、2階フロアを1周するレイアウトになっている。

○ごみ処理を通じ環境情報を発信

- ・多くの市民に来場していただく機会とし、ごみ環境に関する情報を発信している。

屋上は太陽光パネルや生ごみ堆肥を用いた菜園、ペットボトルキャップなどの廃材や埋土種子を用いた草地を整備し、環境を学ぶ場になっている。

(4) 市民参加による建設

旧クリーンセンターは、市独自でごみ焼却場建設を検討してから11年かけ、近隣住民とは3年間75回の討論による市民参加の積み重ねにより建設された。新クリーンセンター建て替えにおいても市民参加の歴史を継承し、新武藏野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会における議論は四期9年に及んだ。



⑤ 環境啓発施設 むさしのエコ re ゾートについて

(1) 施設概要

延床面積 2,184.16 m²

- ・プラットホーム1階 ものづくり工房 フリースペース
- ・事務室棟 1階 スタディールーム、カフェスペース、図書コーナー
- ・事務室棟 2階 アーカイブ、執務スペース

(2) 施設の設置目的 経緯

令和2年11月に開館。

むさしのエコ re ゾートは、気候変動や地球温暖化を踏まえ、ごみをはじめ資源、エネルギー、緑、水循環、生物多様性など多様な環境啓発の拠点施設として、また、環境に関する総合的なネットワークの拠点施設として、武藏野クリーンセンター敷地内の旧クリーンセンター管理棟及び旧プラットホームを再利用して整備した。同じ敷地内にあるクリーンセンター工場棟や、管理棟、芝生広場など、様々な施設やフィールドを使って多様な環境啓発・環境学習を推進する。



むさしのエコ re ゾートが目指すもの

この施設では、日々の暮らしの中に環境問題があることを知り、その気づきを環境に配慮した行動に結びつけ、一人ひとりの行動をつなぎ地域ぐるみの取り組みへと広げ、さらに市全域へと拡大し、より良いまちづくりを目指す。また、これを目標することで、SDGs の達成のために貢献する。

(3) 運営体制、運営予算

○運営体制 (R7年9月末)

正職員 3名、パートナー職員 3名 アシスタント職員 3. 1名

○運営経費

環境啓発事業 23,075千円、環境啓発施設の管理運営 35,012千円

(4) 利用状況と来館者の推移

R5年度 92,416人、R6年 99,517人

小中学生の来館者も増えている 760→991人へ

(5) 利用者の声、評価、満足度等について

- ・来館者はほぼ市全域から、5割の人が複数回来館。
- ・ワークショップ参加者のアンケートは、大変満足、満足を合わせると96%になり満足度は高い。
取り組みへの意欲は、すでに取り組んでいるが19%、取り組みたいと思ったが74%であった。

(6) 開催プログラム・イベントについて（令和7年1月末現在）

- ・むさしの環境フェスタ 年1回 出展 27団体、来場5, 457人
- ・環境の学校 10月～2月 8回 おおむね中学生以上 144人が参加（残り2回）
※中高生及び大学生世代を対象に行う環境の学校もある。（10月～3月 3回）
- ・ワークショップ 通年 主に未就学児から、小学校3年までの子どもが対象 94回
- ・ものづくり工房 通年 100～500人/日程度が参加
- ・展示 通年
- ・環境展 6月1～30日 6月の環境月間に合わせて開催 6月の来館者6, 172人
- ・緑のカーテン 6月～10月 ゴーヤ苗等を配布し、生育記録等のレポートを提出してもらう。
150世帯 レポート44件

*活動団体に対し、武藏野市環境啓発事業費補助金 55, 000円有り。



(7) 今後の方針、課題

- この5年間で市民団体等が啓発活動しやすい仕組みや環境が整ってきており、引き続き継続する。
- 想定を上回る来館者。今後は効率的で安定的な運営体制を構築していく必要がある。
- 市民団体の開発活動や市民による認知・来館を目指し一定の成果を得た。拠点施設として学校や地域事業者などの多様な主体との連携を広げていく必要がある。

○所感

クリーンセンターは、ごみ処理を行う焼却施設ですが、市街地の中心部、市役所の隣にありながらも、周囲の景観に自然に溶け込んでいる点が非常に印象的であった。においてもなく、武藏野の雑木林をイメージした外観デザインにも好感が持てた。また市民の意見を取り入れ、市職員や専門家の方々の総力でつくられた施設であることがよく分かった。

環境に配慮した安全・安心な施設として、電気や蒸気を発生させ、地域へエネルギーを供給している。また、焼却灰からエコセメントを生産し、燃やさないごみから鉄やアルミを回収してリサイクル工場へ運

ぶなど、ごみの再利用が徹底されており、大変参考になった。またごみを再利用することの重要性とともに、家庭や事業所からごみを出さない努力の必要性を改めて感じた。

むさしのエコ re ゾートについては、日本で自治体主催で初となる「気候市民会議」を開催した場所として以前から関心を持っていた。「エコ re ゾート」という名称も、環境を考える場でありながら“リゾート＝楽しむ場所”としての意味も込められており、とても魅力的だと思った。その名の通り、わずか5年間で子どもから大人までが楽しみながら気候・環境について学べる場となっており、今後実際にイベントやワークショップに参加してみたいと感じた。

杉並区でも昨年「気候区民会議」が行われ、区民の意識が徐々に高まりつつあると感じている。このような施設があれば、より多くの区民が身近に環境問題に取り組めるようになるのではないかと思う。

今回の視察を通して得た学びを、今後の杉並区におけるごみ削減や環境施策の推進に生かしていくたい。

